農業近代化資金とはどういうものか

農業基本法が制定されて、他の産業に較べて所得の格差が著るしい、農業の振興に漸く曙光が見られる様になってきた。

農業の構造改善をして、所謂経営の近代化を図る事は、農民の全部が希望しその必要性を自覚している事ですが、いざそれをやろうとする場合は多額の資金が必要であります。

国はこういう点に省み、今回各種制度資金を一本にして農業近代化資金の制度を作り進み行く農業経営の振興策に力を入れ始めたのである。

次に近代化資金の貸付対象等の概要を述べます。

一、だれが借りられるか。

農業を営む者、農業協同組合、農業共済組合およびその連合会。

右のものが主たる構成員または出資者となっている法人。

二、どこから借りるか。

農業協同組合、県信連、農林中央金庫。

三、どんな施設に借りられるか。

農舎、畜舎、たい肥舎、蚕室、農産物乾燥施設、温室、たい肥盤、貯沼そう、原動機、揚排水機具、耕うん整地用機具、病害虫防除用機具、畜産用機具、牧草収穫調整用機具、牛（肥育牛を除く）豚（肉用豚を除く）等。

四、借りられる限度は、

1、個人一〇〇万円、知事の定める規模をこえる者、二〇〇万円。

2、政令で定める者（部落農家組合等）一、〇〇〇万円。

3、農業協同組合、農業共済組合等、五、〇〇〇万円。

五、どの位の期間借りられるか。

償還期限

七年（機械）

（農協組合は五年～六年、利率については基準利率九分五厘でそれに国、県の利子補給があり町も条例を定め特別に利子補給をするので、最終的には協業組織は年利五分、個人の場合には六分となる。

37年度土木行政の方向

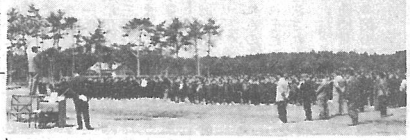
道路の補修及び保全については、町民の方々には常日頃から絶大なる御協力を賜り、有難く御礼申上げます。

さて、昭和三十七年度における土木事業の方向として、新町建設五ケ年計画の一環としての通学道路の新設改良、県道横芝停車場、白浜線の舗装の実施が主たる事業として計画されております。

したがって、災害等による緊要止むを得ないものの外は出来得る限りこれを抑へ、既設道路の維持、保守のために資材の投入を積極的に行い公衆用道路としての機能の向上に資し度いと考えておりますので、従前に倍して道路愛護のために御協力いただき度く存じます。

尚、農耕期ともなりますと、道路に田や水路の泥土を土揚げされておるのを各処で見かけますが、このようなことは道路のために最も悪い条件を作る原因ですから、このようなことのないよう、くれぐれも御留意願います。多くの経費、労力を投入しても実効の上らないことは、合理性を否定することになり兼ねませんので、特に御注意申上げます。

尚土木工事の施行希望の節は、必らず申請書を提出して下さい。早速現地調査を行いその緊要度、実態等によって適否の決定を行い計画性のある土木事業の推進に資すべく努めます。



光中学校の入学式

4月5日、光中第1学年新入学の285名が、希望に胸ふくらませて入学しました。

統合後第1年から新校舎で入学式が行われた第1回で、誠に意義深いものでありました。

写真は光中第一回入学式

赤痢の発生に思うこと

東陽病院副院長　八木天

古い時代には、洋の東西を問わず、病気の原因は神の罰に依るものだとされ、その治療に加持や祈禱が盛に行われた。ギリシヤのヒポクラテス（西暦紀元前の人）は、之に対してミアズマ説（瘴気説）を唱へた。宇宙間に起るいろいろな現象、たとへば彗星の出現や、地震、洪水等が起った後に、病気の発生するのが多いのは、その際に空気が汚されて悪くなり、これを呼吸する為に疫病になるのだと考へた。此の空気をミアズマ（瘴気）と呼び、此のミアズマ説は長い間人々に信ぜられて居た。十四世紀から十五世紀にかけて、欧洲では天然痘、ペスト等の大流行があり、十六世紀には、コロンブス等が米大陸を発見し、それと共に梅毒が欧洲に侵入して来た。

この様なことから、だんだんに疫病は伝染するものだと考へられるに至り、生きた病原体があって、それに依って疫病が広まるのだと云われる様になった。しかし、当時は未だに病原体が確められて居なかったので、ミアズマ説を完全に否定することが出来ず、十九世紀になる迄、病原体は患者から、ミアズマは死人から発生して、そのどちらもが疫病の原因になると考へられて居た。このような時代にオランダのレーベンフックに依って顕微鏡が作られ、汚水や歯垢の中に微生物が居ることが発見された。その後、パスツールやコツホ等の先人の努力に依って、疫病は細菌の伝染に依って起るのだと云ふ伝染説が確立されたのである。

赤痢菌は、明治廿九年、東京に於ける流行の際、志賀潔博士に依って発見され、以来赤痢菌は、志賀に因んで学名を シゲラと命名される様になり、医学会に不朽の功績を樹てられた。ことあらためて、堅苦しい細菌学史、疫病学説等を書いて来たと云ふのは、今は昔。或る町で発生した赤痢のことを書こうと思ったからである。その発端となったのは、或る商店で集りがあり、その時附近の寿司屋から握り寿司を取寄せて、酒の肴とした。不幸なことには、日常、新鮮清潔なことで評判を取って居た、寿司屋の女中さんが、週末映画館で、たまたま赤痢菌の附着して居たアイスクリームを食べ、保菌者となったことであった。二、三日経つと商店に集った人々の中から、ポツポツ下痢が始り、その一人が医師の下で赤痢と診断されて、人々の下痢の正体は判明した。町当局の防疫が完全であったので、赤痢は極く小人数で食ひ止められ、町は再び平和で健康な空気となった。

昭和36年度光中学卒業生

進学の部

学校名	男	女	計
高	4	1	5
高	4	—	4
高	6	2	8
高	11	12	23
高	6	28	34
高	—	—	—
高	2	4	6
商工高	15	—	15
商工高	5	—	5
商工高	5	—	5
商工高	1	—	1
商工高	1	—	1
商工高	1	3	4
商工高	1	1	2
商工高	14	24	38
計	66	75	141

就職の部

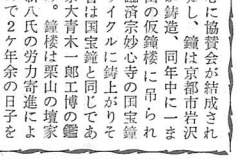
職種別	男	女	計
金属工業	8	1	9
食品製造業	(2)		(2)
学・ガラス工業	7	3	10
化		5	5
電気工業	—	2	2
機械工業	(3)		(3)
土木建築	30	1	31
せん維製造	(1)	(1)	(2)
そ の 他	2	—	2
計	1	1	2
	(1)	(1)	(2)
	8	10	11
	(7)	(2)	(3)
	56	23	31
		44	(9)
			100

在家庭の部

	男	女	計
在家庭	24	17	41

（　）内数は県内就職者

名刹〝関山〟の梵鐘と鐘楼完工近かし



宮川の関山実蔵院では現住職橋浦寛照師の発願で梵鐘の鋳造と鐘楼の建立が昭和32年から計画されつつあった。墳家総代大木市蔵氏越川伸氏故椎名栄治郎氏らを中心に協賛会が結成されて協力し、鐘は京都市岩沢梵鐘が鋳造、同年中に一まづ関山の仮鐘楼に吊られた。臨済宗妙心寺の国宝鐘と同サイクルに鋳上がりその妙音は国宝鐘と同じであると京大青木一郎工博の鑑定済み。鐘楼は栗山の埴家石田新八氏の労力寄進によるもので2ケ年余の日子を費いやして同氏自宅で切り込みを終わり、去る10月から同院境内で建築にかかり、入母屋造り五つ櫓のめづらしい鐘楼が近く落慶の運びに至る。

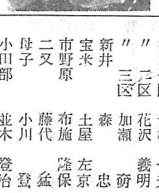
梵鐘70万円。鐘楼3百万円の工費。

風かおる

東陽小五年　越川裕二

みずいろのくびかざり

東陽小六年　佐藤真知子



南条小1年　もりよしこ

きょうは、じいちゃんがよこしばへいってくびかざりをかってきてくれました。くびかざりはみずいろでぴかぴかひかっています。

わたしは、みずいろのくびかざりをかけてかがみをみました。わたしは、にこにこしていました。くびかざりはよくにあいます。くびかざりをして、かあちゃんやばあちゃんのところへいってみせてから、れいこちゃんのうちへあそびにいきました。

れいこちゃんは、けいこねえちゃんとてれびをみていました。れいこちゃんがわたしをみて

「よこちゃんあがれ」

といったのでわたしは、あがらせてもらいました。けいこねえちゃんがわたしのくびかざりをみつけて

「あら、よっこちゃんくびかざりいいのだなあ、だれかってきたあ、きいろいくびかざりねえかなあ、わたしきいろいのほしいなあ。」といいました。

けいこねえちゃんは、わたしのくびかざりをくびにやってみたりてにもってみたりしました。せんせいにくびかざりのことをおしえました。わたしは、せんせいにくびかざりをもってくるやくそくをしました。

事消息

長改選

篠本一区　新区長名
〃　二区　青柳一夫
〃　三区　花沢義明
新井　加瀬　斉
宝来　忠
市野原　森
二又　左京
母子　土屋
小田部　布施隆保
台　藤代孟
小川台　小川登
傍廻戸　並木登治
富下　加瀬友吉
虫生　鈴木誠之進
芝崎　斉藤藤左衛門
作間内　加瀬
宮内　土屋勝
谷中　野村重男
長塚　越川利朗
五之神　鈴木憲一郎
尾垂五区　越川俊夫
谷　浅野三郎
原方　鈴木和夫
辻　山下政一
木戸　大木秀夫
関　実川卯平
柄　大木正春
山　林桑
山崎　石橋三千勝
山崎一郎　川島太一郎
向後誠二

36年度末37年度当初学校教職員人事異動

管外転任

☆中学校関係

日吉、森シゲ子吉田中へ
〃　早川政代栄中へ
〃　山下千絵子八日市一中へ
〃　伊藤英雄八日市中央中へ
南条、櫛田利貞豊栄中へ
東陽、酒井健太郎銚四中へ
光中へ増田澄豊栄中より
〃　宇井野和重八日市一中より

☆小学校関係

日吉、山崎幸子豊栄中へ
東陽校森上くに子東陽小へ
南条小関川静枝東陽小へ

後編記事

「ひかり」は町民皆さんのもの。

広報紙は編集する度毎に親しみある広報、ガラスばりの町政報導を と努力しておりますが、更に皆さんの御意見や御希望、建設的な生のお声などお聞かせ頂いて、よりよい町政、聞かせ頂いて、よりよい生活の窓を開こうではありませんか。